

令和8年8月20日

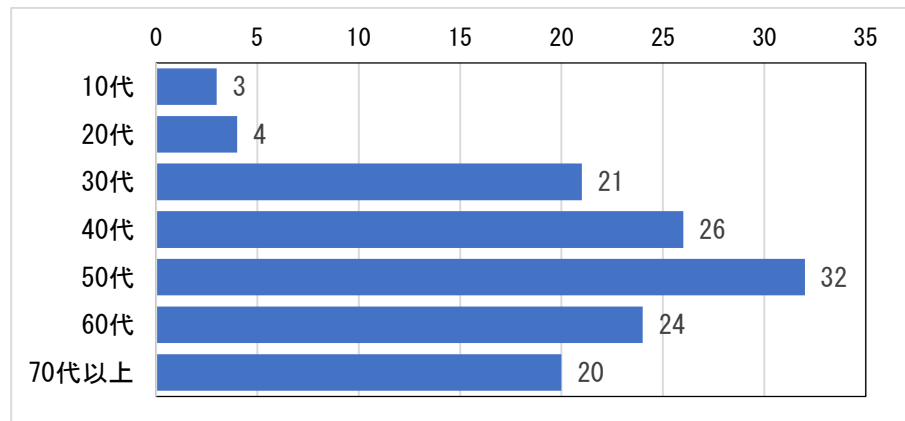
令和8年度第3回県政モニター分析結果

歴史・美術センター黎明館学芸課

- 1 調査テーマ：黎明館に期待すること
- 2 調査目的：博物館法がかわり登録博物館となった黎明館が、これから目指す姿を具体化するための基礎資料を得るため。
- 3 実施月：令和8年7月
- 4 有効回答数：130件
- 5 調査結果

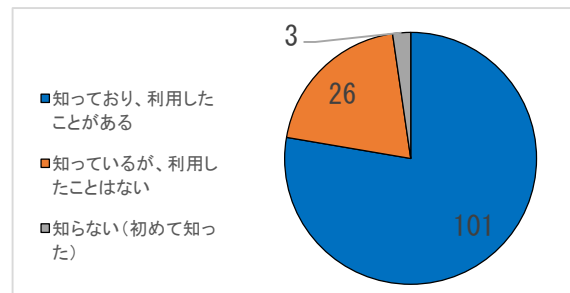
(1) 回答者の属性

年代	人数〔人〕
10代	3
20代	4
30代	21
40代	26
50代	32
60代	24
70代以上	20
計	130



(2) 認知・利用状況【設問2】

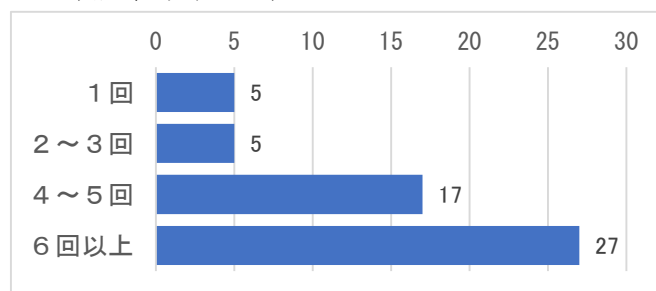
項目	人数〔人〕	割合〔%〕
知っており、利用したことがある	101	77.7
知っているが、利用したことはない	26	20.0
知らない（初めて知った）	3	2.3



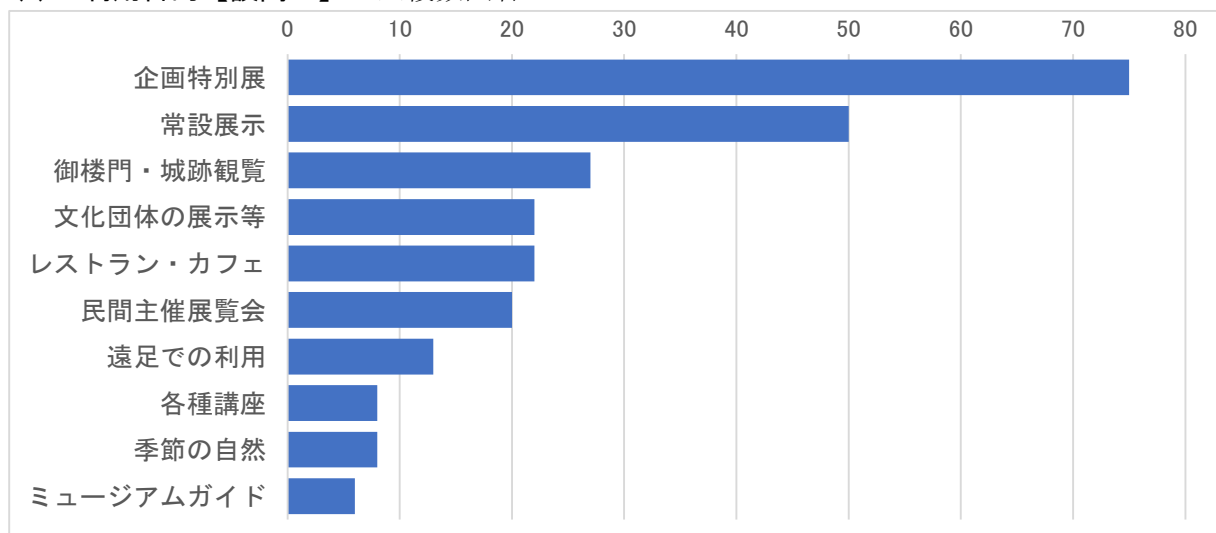
※知っているが、利用していない理由：「居住地から遠隔地」が最多、次いで「事業内容を知らない」「歴史文化に興味がない」「事業に魅力を感じない」

(3) 利用回数【設問3】 ※利用経験者101名

回数	人数〔人〕
1回	5
2～3回	5
4～5回	17
6回以上	27
計	101

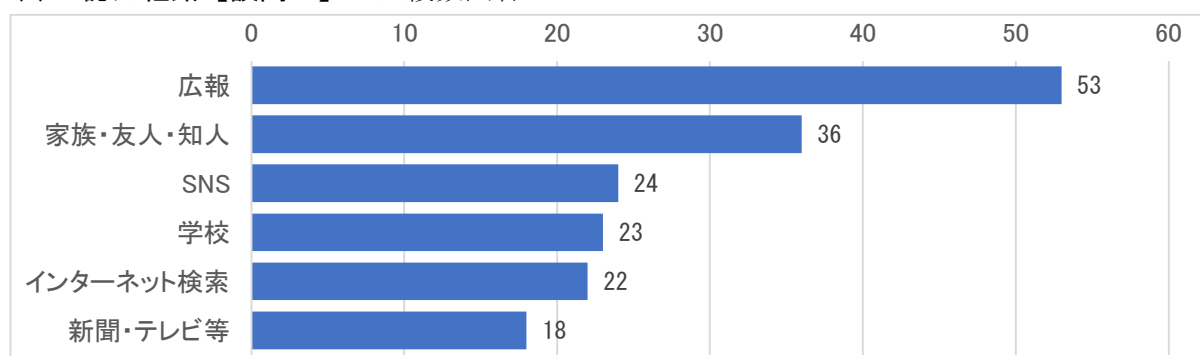


(4) 利用目的【設問6】 ※複数回答



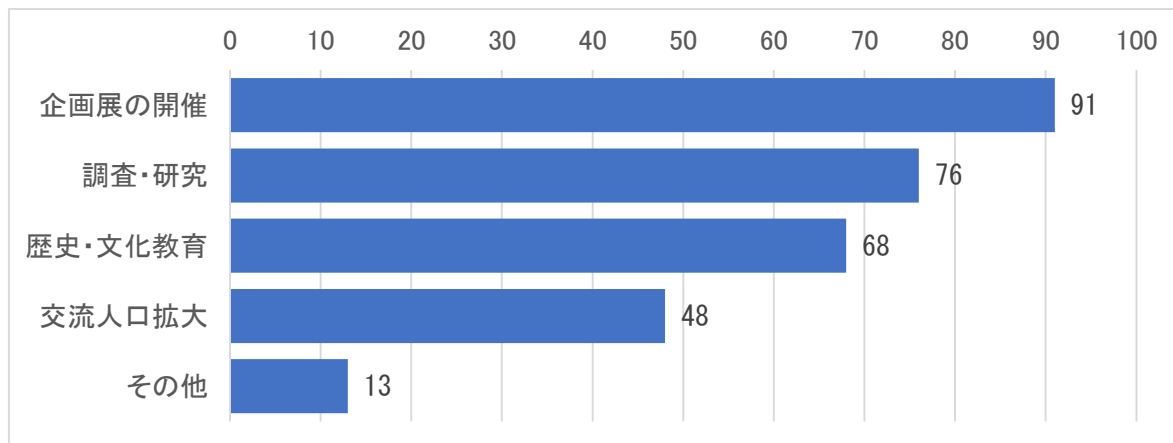
	目的	件数
ア	企画特別展	75
イ	常設展示	50
ウ	御楼門・鹿児島城跡の観覧	27
エ	レストラン・カフェの利用	22
オ	文化団体等の展示会・講演会・文化活動	22
カ	民間事業者の各種展覧会	20
キ	遠足での利用	13
ク	季節の自然（桜・蓮）	8
ケ	各種講座（古文書・学芸・講演会等）	8
コ	ウィークリー・ミュージアムガイド	6

(5) 認知経路【設問7】 ※複数回答



	経路	人数
ア	行政の広報（HP・広報誌）	53
イ	家族・友人・知人から聞いた	36
ウ	SNS（X・Instagram・Facebook等）	24
エ	学校	23
オ	インターネット検索	22
カ	その他（新聞・テレビ等）	18

(6) これからの黎明館に期待すること【設問7】 ※複数回答



	項目	人数
ア	魅力的な企画展の開催	91
イ	鹿児島県の歴史・文化に関する調査・研究の充実	76
ウ	子供たちへの歴史・文化教育の充実	68
エ	県内外からの交流人口の拡大による地域活性化	48
オ	その他	13

(7) 自由記述の内容分類

	分類	主な意見（要約）
ア	展示内容の充実	VR 体験ゲーム、埋もれた人物の発掘、企画展の充実
イ	施設・環境整備	駐車場から玄関へのアクセス改善、遊歩道・植栽整備、HP改善
ウ	飲食・滞在機能	気楽なカフェスタンド、茶室の活用
エ	運営方針への意見	集客重視の展示と文化拠点としての方向性のブレへの懸念
オ	研究の社会的活用	歴史を現代課題の解決に活かす研究視点
カ	景観・自然	季節ごとの景観の活用

6 調査の考察

- 本調査（有効回答130件）では、回答者は40～60代が中心（約63.1%）で、黎明館を「知っており利用あり」が101名（77.7%）、「知っているが未利用」26名（20.0%）、「知らない」3名という構成であった。認知度は非常に高い一方、認知していても来館に至らない層が2割存在する点が特徴である。
- 来館理由（利用目的）では、企画特別展が75件と最も多く、常設展示50件が続いた。加えて御楼門・鹿児島城跡の観覧（27件）、レストラン・カフェ（22件）、季節の自然鑑賞など、歴史展示以外の「周遊・滞在型」の利用も一定数あり、黎明館が複合的な文化・観光拠点として機能している実態がうかがえる。利用回数は「4～5回」「それ以上」が多く、リピーターに支えられている構造である。

- これからの黎明館に期待することは、魅力的な企画展の開催(91件)が最多で、来館理由と完全に一致した。次いで歴史・文化の調査研究の充実(76件)、子供たちへの歴史・文化教育(68件)、交流人口拡大による地域活性化(48件)と続き、集客力のある展示と博物館本来の教育・研究機能の双方が求められている。
- 自由記述からは、①VR体験など展示手法の革新、②駐車場アクセスや遊歩道・HPなど施設・情報環境の改善、③カフェや茶室活用による滞在価値向上、といった具体的要望が抽出された。一方で「集客目的の展示」と「文化拠点としての重厚さ」の両立を懸念する声もあり、運営コンセプトの明確化が課題として浮かぶ。
- 未利用者の理由は「遠隔地で機会がない」が中心で、事業内容の周知不足も挙がった。認知経路は全体では行政広報が主力だが、若年層ではSNSや検索が優位である。したがって、①企画展の魅力向上を軸に、②若年層向けのデジタル発信強化、③施設アクセス・滞在環境の改善、④教育・研究機能の対外発信という4点が、来館促進と満足度向上の鍵になると考えられる。
- 参考（自由記述欄全掲載）
 - ・ディズニー等の展示会
 - ・1. 季節ごとの景観も楽しめる。2. 現存の茶室を、丁寧に使う事を条件に茶道団体への貸し出し。建物が古くて使用が難しい？
 - ・企画展の充実
 - ・気楽なカフェスタンド
 - ・鹿児島県出身者の中で歴史上埋もれている重要人物の発掘と紹介
 - ・二科展や南日本美術展などの美術展覧会
 - ・黎明館の展示を視察し、最大の課題として認識したのは施設としての「方向性のブレ」である。同館は本県の歴史や美術を伝承する重厚な文化拠点であるが、近年は集客を意図したアニメ等の特別展も散見される。幅広い層
 - ・HP改善。
 - ・駐車場から正面玄関へのアクセスの改善。桜などの植栽や表示の充実、木陰のある遊歩道の整備。
 - ・西郷隆盛と大久保利通の人生を振り返るVR体験ゲームコーナーの開設を期待しています。これからも魅力ある黎明館の運営を楽しみにしています。
 - ・コロナや温暖化など現代的課題を、昔の知恵を解決の糸口にしようとする風潮がなくなっている。歴史を興味や趣味ではなく今後の生活・未来の日本・鹿児島に役立てるという視点で研究の前進・発表が必要ではないか。
 - ・れい明館に行き、見たかったら券を買い見る。
 - ・南日本新聞のイベント欄と言ってみて、見たい時に見る。
 - ・県民・県外の方が見たい、入館したいと思うような運営をして欲しい。
 - ・県職員の運営力不足。